



風野旅人  
旅人のツック

### 雨風 1

# 雪と風と彼方の物語

発行	旅人のツック
著者	風野旅人
URL	http://www.dln.or.jp/~tabio/
E-Mail	tabio@dln.or.jp
Special Thanks	Hiroshi

奥付

本書の無断複製、転写、転載を禁止します。  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
(http://tokmasyiphd.jp)

2013年 8月17日 初版

## 雪と風と彼方の物語

### 雨風

雪女たちが暮らす『雪氷の街』の朝は早い。東の空の下が微かに光を帯びる頃には、雪女たちは既に目覚めて朝食の支度に取りかかっていた。

暑さに非常に弱く、日中に行動の制限がある雪女にとってこれが当たり前のことであり、夏場はこの傾向が特に強くなる。日の出も早さも相まって人間の時間で言う五時過ぎには朝食の準備が終わる頃だという。

朝霧に薄く包まれた街は忙しく雪女たちが行き交い、この静かな町並みのどこに居たのかと思うほどの賑わいを見せていた。

——ただし、一見して雪女のイメージから幾いもかけ離れたミニマムサイズの雪女たちが大半であるが……

小さな雪女たちが朝食を準備する時間にも関わらず外を出歩いているにはわけがある。そのぬいぐるみ然とした体躯では朝食を作るのも一人ではままならない。そこで幾人かが寄り合い共同で食事を作ることになっているためであった。

この街を守る結界を維持する夜の女帝——命名は修——こと、術者・吹雪の店である『瑠璃狐屋』から少し離れた所に雪菜が住む家があった。

集落の中心部を通る道に沿うように並んでいた瑠璃狐屋と違い、こちらは郊外の住宅地にある一軒家という趣であるが、やはり『雪女』というフレーズから連想される家々のイメージからは遠く離れている。

あやかしとはいえ、ここに住む雪女たちは半分は人であることは変わらない事もあつて、家屋の内部構造も人間のものとほとんど変わりが無い。

ただし、基本的に寒い。まだ夏真っ盛りであるこの時期だからこそ肌寒い程度で済んでいることもあつて問題にならないが、ここは暖房設備を必要としない雪女の住処である。真冬なら間違いなく凍えている室温になることは疑いないだろう。

結界の外は熱帯夜で眠れぬ夜だったかもしれないが、この街では複数枚の掛け布団が無かったら寒すぎて眠りにつくことすら難しい。

なお、雪女といえども季節にかかわらず掛け布団は必要とのこと。人と同じく、寝ている間の体温維持のため布団を使用しているとのことであった。

「朝……か……」

雨戸の隙間から漏れた日の光をかざした手で遮りながら、青年こと彼方修は宛が

われた部屋で目を覚ました。

自分の上にあつた分厚い掛け布団を捲り上げながら修は布団から身を起すと、欠伸を噛み殺しながら枕元に置いていた腕時計を手にする。

「ふあ……つて、おいおい、まだ五時過ぎじゃ無いか……」

夏場のこの時期ならば目が昇っている時間ではあるが、昨晩は早めに寝てしまっていたとはいえ、普段であれば修はこんな時間に目を覚ますことは無い。

寒さで目を覚ましたというほど布団の中は冷たくなかつたので、顔に差し込んだ日差しと外のざわざわした雰囲気が目が醒めてしまったようである。

「寝直すか……今日は近くの村までまた歩きだろうし……」

少なくとも昨日降ったバス停までは戻らなくては次の移動がままならなくなるし、そもそも本数が少ないバス路線であつたため、出来れば直接近くの人里まで向かいたいところではあつた。

結果を越える手間を差し引いたとしても、今日も結構な距離の移動を要求されることを考えると、まだ体を休めていた方が得策だろう。

修は腕時計を枕元に戻して布団に手を掛けたのだが、あの奇妙な生命体ことエコサイズな雪女・雪菜がいつの間にか布団の前にもよこんと座つていた。

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 7

「……雪女といえども季節にかかわらず掛け布団は必要とのこと。人と同じく、寝ている間の体温維持のため布団を使用しているとのことであった。」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 6

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 5

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 4

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 3

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 2

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 1

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

### 雨風 0

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

「……おっ？ おはようさん、どうかしたのか？」

